

令和5年度 沖縄県 英語教育改善プラン

目標

学級担任と英語専科指導教員の指導力の向上

1. 現状

改善が進んだ点

- ①授業における言語活動の割合（5・6学年）
75%以上…53.4%
50%以上75%…
37.6%
- ②「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」を評価する、パフォーマンステストの状況（5・6学年）
実施あり…94.2%

未だ改善が必要な点

- ①CAN-DOリストによる学習到達目標の設定状況等
設定…55.9%
公表…34.4%
把握…48.0%
- ②学級担任の英語力及び指導力

2. 分析

- ①②R1～R5の間に全小学校教諭を対象とした研修会を実施（受講者4453人：令和4年度まで）することで、学習指導要領及び指導と評価に関する理解が進んでいる。
〈研修内容〉
・公開授業参観
・指導主事による学習指導と評価に関する説明
・英語専科によるワークショップ

- ①CAN-DOリストの周知と理解（理解のための研修等）の不足

- ① ALT任せや言語活動の趣旨を捉えきれていない授業が見られることから、児童に身に付けたい力が明確になっていないことがわか。そのため、継続した研修の実施が必要である。

3. 施策・事業

① ② 小学校英語スキルアップ研修会の実施

- 対象：未受講の小学校本務教諭
- 実施主体：教育事務所
- 研修内容：○公開授業（CAN-DOリストの活用）と「言語活動の充実を目指した学習者用デジタル教科書の活用」
○学習指導と評価について
○英語専科によるワークショップ

① 英語専科指導教員連絡協議会

- 対象：英語専科指導教員（34名）
- 内容：公開授業（テーマ：「CAN-DOリストの活用」と「言語活動の充実を目指した学習者用デジタル教科書の活用」、②協議、授業研究会

① ② 義務教育課ポータルサイトでの情報提供

- 「沖縄県版CAN-DOリスト(カード)」の掲載、ICTの活用事例の紹介、各種資料の掲載
- 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組**

- 教員採用試験における加点
- ・中学校または高等学校英語教諭普通免許
- ・英検準1級以上、TOEFL iBT 72点以上、TOEIC Listening&Reading Test 785点以上のいずれか

令和5年度 沖縄県 英語教育改善プラン

目標

中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上の英語力を有するまたは有していると思われる生徒の割合が45%以上

1. 現状

改善が進んだ点

- ①英語担当教師の英語力の状況…58.5%
- ②・小学校と連携している（する予定）の学校の割合…71.2%
・ICTの活用「遠隔地における生徒同士の交流」…23.7%

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力の状況 CEFR A1レベル相当以上…38.6%
- ②CAN-DOリストによる学習到達目標の設定状況等
設定…89.9%
公表…54.7%
把握…61.9%

2. 分析

- ①R3年度より2.3p下降ものの、国目標を上回っている。自身の英語力への関心が高いこと、教員採用試験での加点制度による成果と考えられる。
- ②R3年度より約10p上昇。ICTを活用した生徒同士の交流についても同様に10p（小学校では20p以上）上昇しており、ICTの活用によって小中連携の取組も促進されていると考えられる。

- ①課題に対応した授業改善が必要である。
- ②作成する年間指導計画や単元計画、評価計画等が生徒に身に付けさせたい力に基づいていない。

3. 施策・事業

- ① ② **授業力アップ研究会（年2回）**
対象：中学校英語科教諭 各学校1名
研修内容：○文科省教科調査官による講話（全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた中学校外国語科の授業の在り方～CAN-DOリスト形式による学習到達目標を活用した授業づくり～）・協議
○公開授業（「CAN-DOリストの活用」と「言語活動の充実を目指した学習者用デジタル教科書の効果的な活用」、協議、調査官助言
- ① ② **STEP UP研修会（年2回）**
対象：中学英語科教諭 各学校1名
内容：琉球大学准教授による講義（指導と評価の一体化を目指したテストづくり～CAN-DOリストの活用と評価、ワークショップ
- ① ② **英検IBAの実施**
対象：全中学校 全学年生徒
実施期間：8月下旬～9月下旬
生徒の学習改善と教師の授業改善に生かす。
- ① **小中高大連携研修会への参画**
対象：小中高英語科担当教師 各校1名
内容：オンデマンド研修、各校種における授業動画を視聴、振り返りを記入し提出

令和5年度 沖縄県 英語教育改善プラン

目標

指導と評価の一体化の促進を通じた生徒の英語力向上（CEFRA2レベル相当50%）
及び国際性を身に付けたグローバルに活躍できる人材の育成

1. 現状

- ①CEFRA2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒割合の増加(R3:42.3%→R4:43.2%)
- ②授業における生徒の英語による言語活動時間の割合の増加(R3:53.2%→R4:59.6%)
- ③CEFRB2レベル相当以上の英語力を取得している教師割合の増加(R3:84.6%→R4:91.3%)
- ④「CAN-DOリスト」形式の公表している・達成状況を把握している学科数の向上(公表 R3:20.6%→R4:47.1%)(達成状況の把握 R3:46.1%→60%)

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFRA2レベル相当以上を取得している生徒割合(R3:17.2%→R4:15.1% 全国47位)
- ②授業における、英語担当教師の英語使用状況(発話50%を英語で行っている)(R3: 63.2%→R4:60.3%)

2. 分析

- ①CEFRA2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の評価方法の周知がさらに必要ではあるが、各学校が生徒の英語力を丁寧に見取った結果だと推察する。
- ②指導と評価の一体化を図るため研修等で英語による言語活動を促進し、評価の改善を促した結果だと推察する。
- ③研修等を通して、英語担当教師の英語力が向上し、検定等に対する意欲も高まったと推察する。
- ④観点別評価が本格的に開始され、研修を通して、各学校の設定目標、授業計画、評価計画の改善が進んだと推察する。

- ①新型コロナウイルス感染症流行の影響が及ぶ中、受験者数も少なく、取得率も下がった。経済面の影響もあったと推察する。
- ②マスク着用で授業する中、英語による指示が行き渡らず、英語の使用率が低下したと推察する。

3. 施策・事業

①教育課程説明会

R4年度は、高校英語担当教員対象にオンラインでICTを活用した言語活動の共有とテスト作成の仕方など評価に関する内容を中心に取り組んだ。各学校の実践事例等をTeamsで共有するなど県全体への周知も行った。

②英語小中高大連携研修会

令和4年度は県内全ての小学校、中学校及び高校から1名以上の教員が参加するオンデマンド研修を実施した。異校種の授業観察や県内大学の英語教育専門人材の招へい等により、本県英語教育の課題の共有や対応策について理解を深めた。令和5年度も同様にオンデマンド型で実施する予定であるが次年度以降、より充実した研修会にするためハイブリッド型を検討する。

③国際性に富む人材育成事業

- 国際性に富む人材育成留学事業（長期留学）
- グローバルリーダー育成海外短期研修事業
 - ・アメリカ高等教育体験研修（3週間）
 - ・専門高校生国外研修（2週間オーストラリア）
 - ・高校生海外雄飛プログラム（2週間ハワイ）
- アジア高校生オンライン国際交流事業